

子どもの未来を支える税金

高松市立屋島中学校 3年 岡林 将登

「今まで毎年検査をしていたけど、もう来なくても大丈夫だよ。身体も心も、大きく成長したね。」

税の仕組みについて考えていた時に、僕が小学四年生の時に小児科の先生からいただいた言葉が頭に浮かんだ。

十四年前、僕は未熟児で小さな身体で産まれてきた。大きな産声をあげることなく、すぐに小児病院に運ばれ検査すると心臓の病気が見つかり長く入院することになった。幼い頃の僕は身体が小さく病気にかかることが多かったと母から聞いて、金銭的にも精神的にも多くの負担をかけてしまったと思っていた。すると母から、

「精神的に辛い時もあったけど、未熟児制度のおかげで、金銭的には困ることなく安心して医療を受けることができ救われた。」と話してくれた。

今、元気で学校に通い大好きなテニスができるようになったのも、先進の医療設備の中で病院の先生や看護師の方々の懸命な治療のおかげだ。忘れてはならないのが、素晴らしい医療サービスを誰でも平等に受けられる日本の制度は、どれだけの恩恵を僕たちに与えてくれているかを改めて強く実感した。税金があるからこそ、僕たちは守られ安心して生活ができているのだ。

高松市では、子ども医療費助成という制度があり、ゼロ歳から十五歳の中学三年生が助成対象になっている。低負担で病院にかかることができるのは、子育て世帯にとって助かるものだ。大人と比べても、乳幼児は病気にかかることも多く、負担は大きいと思う。

税金で一番多く使われているのは社会保障費で、医療や介護、福祉などだ。今、日本では少子高齢化が急速に進み、社会保障の給付や負担が増大している。もし医療などに税金が使われなくなったら、医療を必要とする僕たちはどうなるのだろうか。そう考えると、産まれてきた時から素晴らしい医療を受けられる制度を支えている税金に感謝したい。

僕は、今の自分にできることは何かを考えてみた。それは今、自分が置かれている状況で頑張るということだ。世の中では新型コロナウイルスにより大変な状況が続いている。先日受けたワクチン接種や全世界帯に配布されたマスク、特別給付金など全てに税金が使われ、困っている人は安心できたと思う。中学校生活の中で僕は何事も前向きに取り組んできた。将来きちんと税金を納め社会を支える一人になれるよう、努力していきたい。

子どもの未来を支える税金の在り方や必要性を知ること、税金のありがたさを実感した。納税者の方に深く感謝し、社会に貢献できる大人になりたいと思う。僕の周りにいる支えてくれている人達に、「ありがとう」と言いたい。